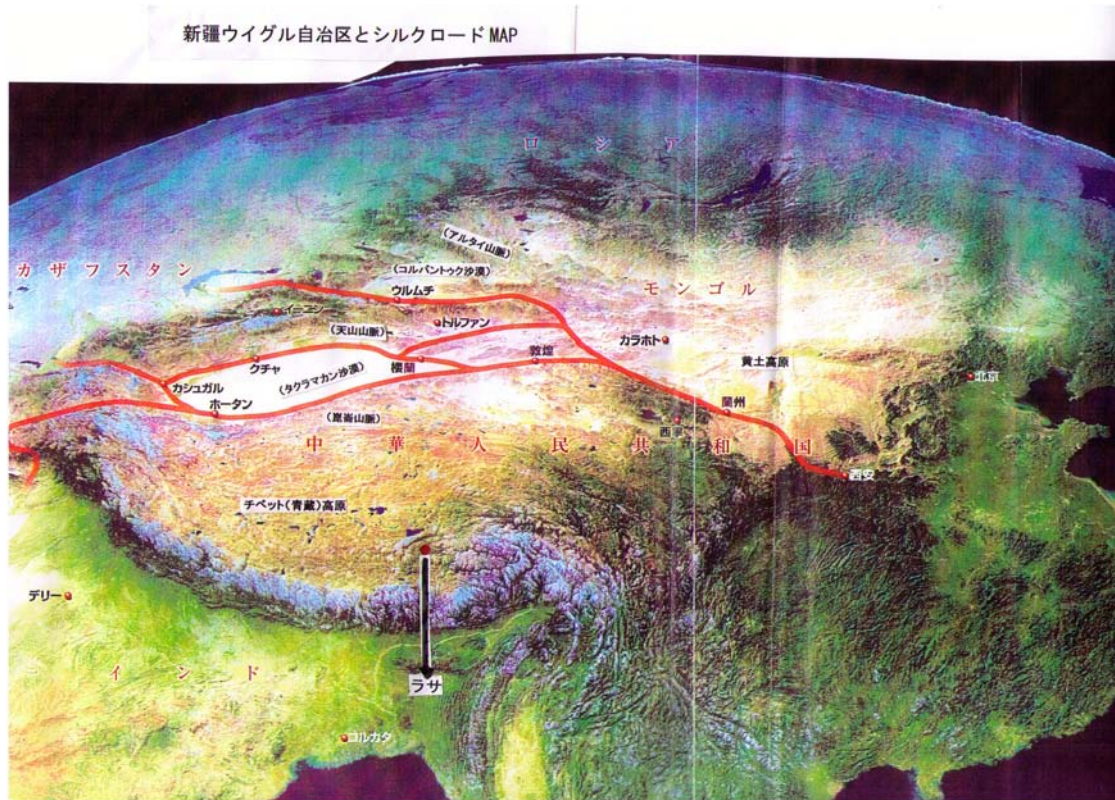


新疆ウイグル自治区は、シルクロードの通過地

日本から約 5000km 離れた西方にあり、ユーラシア大陸の中心部にあります。
シルクロードの通過地として世界的に有名ですが、日本人には
「唐の時代の高僧、玄奘三蔵に因んだ孫悟空の舞台」として広く知られています。



新疆ウイグル自治区の沙漠化と黄砂の問題

新疆ウイグル自治区には、中国第一位（世界第二位）と中国第二位の大沙漠があります。
第一位は「タクラマカン沙漠」で、日本列島がスッポリ入ってしまう大きさです。
新疆大学沙漠緑化国際研究基地はウルムチの北方、中国第二位の沙漠「コルバンツク沙漠」にあります。

現在日本では、内モンゴル地域（ゴビ砂漠）や黄土高原での植樹活動が良く知られていますが、沙漠化による経済および生活・社会活動に及ぼす被害規模は、新疆ウイグル自治区の方が何倍も大きい事実は残念ながら日本ではあまり知られていません。

近年、「新疆ウイグル自治区の沙漠化問題は、中国内だけでなく中央アジア共通の環境問題」として、さらに「地球環境の問題」としても認識が高まり、新疆大学を中心に様々な国際研究が始まっています。

毎年日本に大きな被害を及ぼす「黄砂」ですが、中国内陸部のタクラマカン沙漠、ゴビ砂漠、黄土高原などの乾燥・半乾燥地域で、風により数千メートルまで吹き上げられた土壌や鉱物粒子が偏西風に乗り、中国内や韓国、日本、さらに米国西海岸まで飛来し、大気中に浮遊あるいは降下する現象が「黄砂」ですので、新疆ウイグル自治区の「沙漠緑化活動」は、「黄砂対策」としても有意義な活動であります。